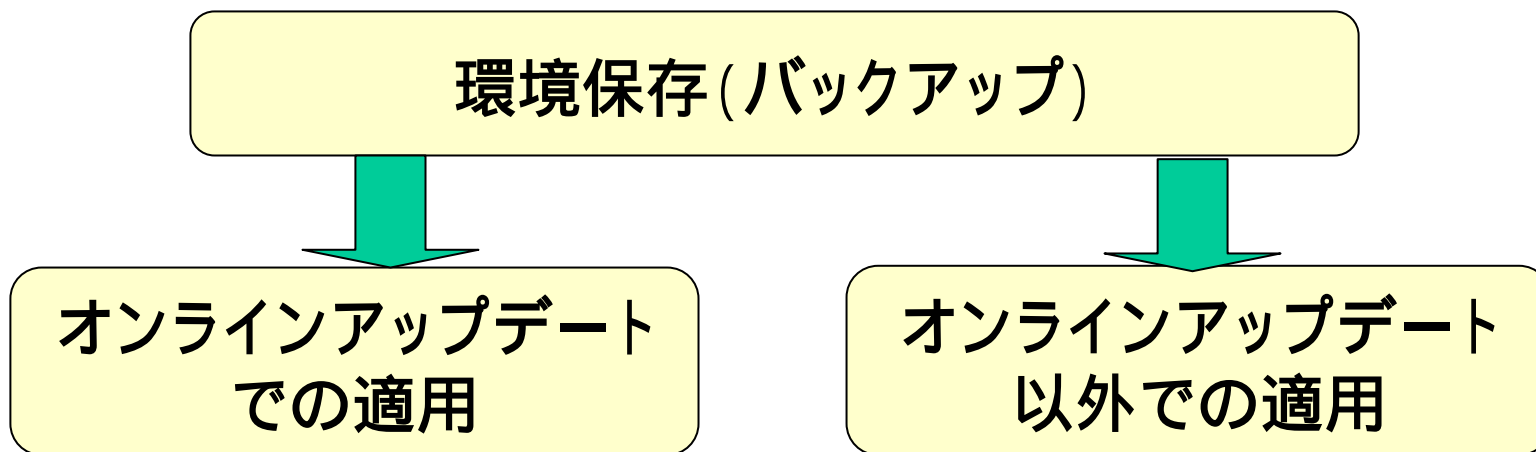
Express5800/MW300e,MW500e (N8100-1343,1344) パッチ適用手順書

本書は、Express5800/MW300e,MW500e(N8100-1343,N8100-1344)の運用/管理者を対象にした、パッチ適用に関する手順書です。
(Management Consoleの使用方法は、マニュアルなどをご覧下さい)

2008/9/19　第2版

NEC

目次

パッチ適用作業の流れ

バックアップ

アップデートモジュール適用後に何らかの問題が発生し、アップデートモジュール適用前の状態に戻すこととなった場合、システムの再インストール、および、バックアップデータのリストアを行う必要があるため、必ず、アップデートモジュール適用前にバックアップを行って下さい。
次ページ以降を参考に、運用形態に合った方法でバックアップを行って下さい。
バックアップの形態は、下記４パターンとなります。

バックアップについては、ユーザーズガイド、Management Console のヘルプにも詳しい説明がございますので、本手順書と合わせて参照して下さい。

Windowsマシンへの定期バックアップ手順 (1/2)

1．Windows マシンの共有フォルダの作成

例：ネットワークで接続されたWindowsマシン「winpc」上に「user」というユーザーを用意し、「share」という共有フォルダを作成する。

2．Management Consoleによる設定 (1/2)

Management Consoleで以下の順にクリックして下さい。

■ バックアップ/リストア一覧

操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ テープリストア			バックアップしない

Windowsマシンへの定期バックアップ手順 (2/2)

2．Management Consoleによる設定 (2/2)

以下の内容を入力して下さい。

■世代･スケジュールの設定

例：毎週月曜日の朝9:00 **にバックアップをとる。バックアップファイルは**5 **世代分残す。**

■Windowsマシンの設定

「Samba」**をチェックし、**Windows**マシンに接続するための設定を行う。**

例：ワークグループ名「workgroup」、**マシン名**「winpc」、**共有名**「share」、**ユーザ名**「user」、**パスワード**「********」

最後に[設定]ボタンをクリック

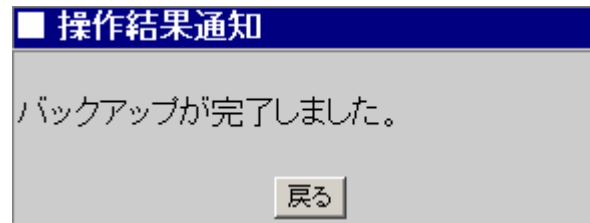
Windowsマシンへの即時バックアップ手順 (1/2)

即時バックアップは、定期バックアップの操作とほぼ同じです。異なる点は、Management Console**の設定中以下の画面で「世代・スケジュール」の設定を行わないこと、最後に「即実行」ボタンをクリックすることです。**

世代・スケジュールを設定しない

最後に「即実行」ボタンをクリック

Windowsマシンへの即時バックアップ手順 (2/2)

「即実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。

注意

「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル (ユーザ環境復旧) 」に含まれていませんので、必要であれば「各種ログファイル」を選択して同じ手順でバックアップを行う必要があります。

テープデバイスへの定期バックアップ手順 (1/2)

テープデバイスが正しく接続されていることを確認して、
Management Consoleから以下の操作を行って下さい。

① システム

② バックアップ／リストア

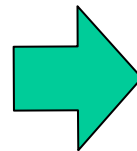
③ テープバックアップ

テープデバイスへの定期バックアップ手順 (2/2)

以下の内容を入力して下さい。

テープデバイスへの即時バックアップ手順 (1/3)

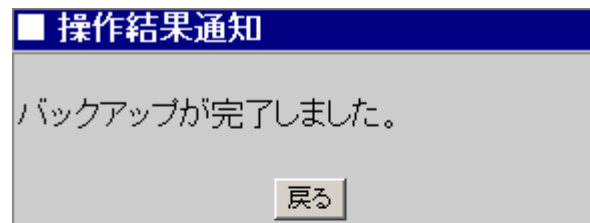
テープデバイスが正しく接続されていることを確認して、
Management Console**から以下の操作を行って下さい。**

■ バックアップ/リストア一覧

操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ			バックアップしない

③
テープバックアップ

テープデバイスへの即時バックアップ手順 (2/3)

テープデバイスへの即時バックアップ手順 (3/3)

「実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。

バックアップの補足事項 (1/2)

1. 「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」に含まれていませんので、必要に応じて「各種ログファイル」をバックアップする必要があります。

2. 「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」のバックアップは、
   - ・システム、各種サーバの設定ファイル
   - ・ユーザのホームディレクトリ
   - ・メールスプール
   - ・メーリングリスト

   の項目をバックアップすることと同じ意味になります。
   両方の項目を指定すると、二重にバックアップされますので領域/時間の無駄が発生します(動作上の問題はありません)。
   ただし、ロードバランスクラスタ構成の場合、メールスプールとメーリングリストは含まれません。

バックアップの補足事項 (2/2)

3. ESMPRO関連の情報はバックアップされません(リストアによる動作が保証されていないためです)。
   したがってESMPRO関連の設定については、システムの再インストール後、ユーザーズガイドに従い改めて行って下さい。

4. バックアップデータのリストアを行う場合、バックアップ時点と同じアップデートモジュール適用状態である必要があります。バックアップを行う前、もしくは、バックアップ直後に、アップデートモジュール適用状況の確認を行い、適用状況をメモ用紙等に控えておいて下さい。

アップデートモジュール適用時の注意･制限事項(1/3)

(1)共通の注意、制限事項

- アップデートモジュールは、必ず、公開された順番で適用して下さい。
- オンラインアップデートでは1モジュール毎に再起動が必須です。
- オンラインアップデート以外の方法では、すべてのアップデートモジュールを適用した後に再起動が必要になります。

(2)ロードバランスクラスタ構成での注意･制限事項

- マスタ、スレーブの順で、すべての本装置へ適用して下さい。
- マスタへの適用前に、マスタのManagement Consoleに接続し、システム＞ロードバランス 画面にて、ミラーリング間隔に ”NO”を設定して下さい。
- 適用前に、サービス画面の[停止]ボタンにて、各種サービスを停止して下さい。
  ※TELNET、FTP 、サービス監視(chksvc)サービス以外のサービスについては、
  再起動により、元の起動状態に戻ります。
- 適用後に、マスタから先にシステムの再起動を行って下さい。
  スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行って下さい。
- すべての本装置へアップデートモジュールを適用した後に、システム＞ロードバランス画面にて、ミラーリング間隔を設定して下さい。

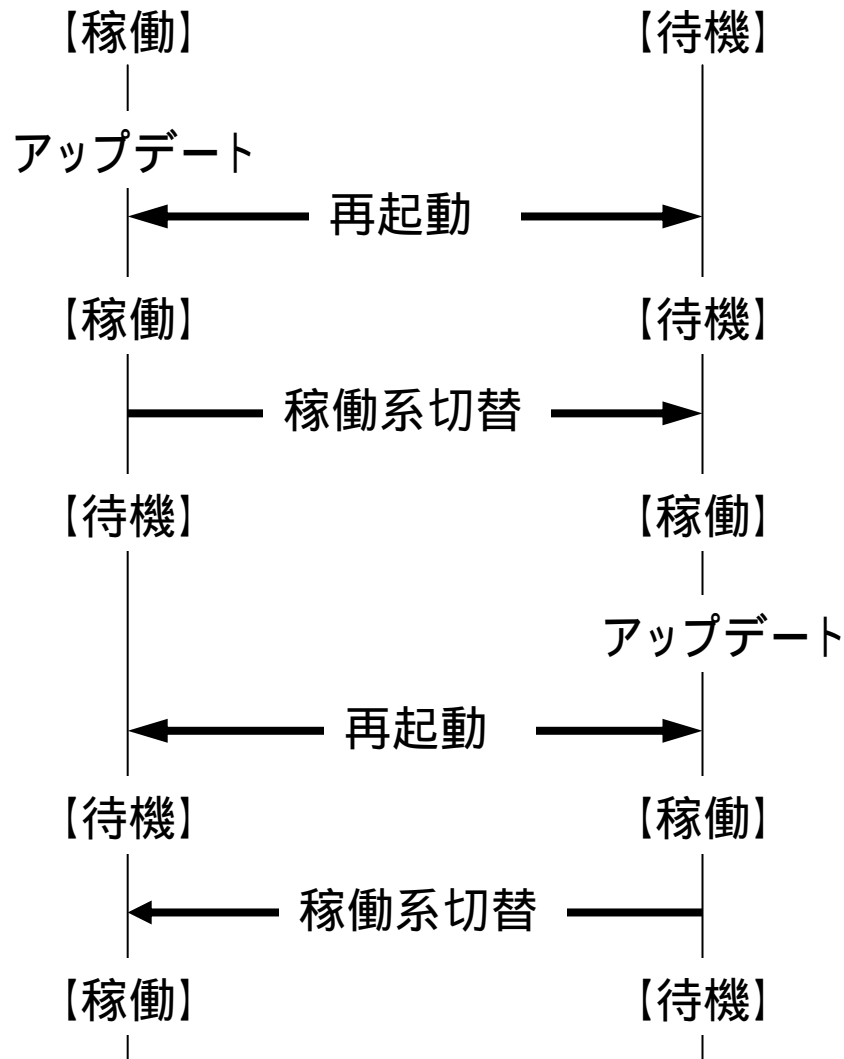
アップデートモジュール適用時の注意・制限事項(2/3)

(3)フェイルオーバクラスタ構成での注意・制限事項

・アップデートモジュールは、稼動系の状態でのみ適用可能です。待機系サーバへ適用する場合は、一旦、系の切り替えを行い、稼働系にした後、適用を行って下さい。

・オンラインアップデートで適用する場合は、適用後に、稼動系サーバの状態のまま、システムの再起動を行って下さい。
コマンドで適用する場合は、すべてのアップデートモジュールを適用した後に、稼働系サーバの状態のまま、システムの再起動を行って下さい。
どちらの場合も、CLUSTERPRO　Webマネージャから再起動を行って下さい。
なお、稼働系サーバを再起動する際、同時に待機系サーバも再起動して下さい。

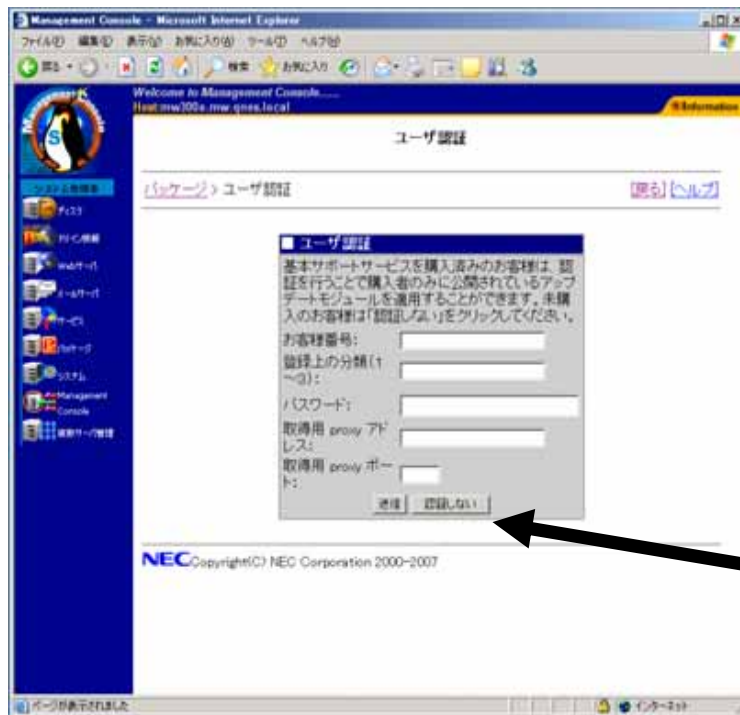
フェイルオーバクラスタ構成時の適用イメージは、次ページのとおりです。

アップデートモジュール適用時の注意・制限事項(3/3)

オンラインアップデートでの適用(1/5)

適用可能なアップデートモジュールの一覧を確認します。
Management Console **でパッケージをクリックし、**[**オンラインアップデート**]**の**[**アップデートモジュール一覧**]**ボタンをクリックして下さい。**

オンラインアップデートでの適用(2/5)

初めてオンラインアップデートを利用する場合、もしくは、公開モジュールの最新情報を取得する場合は、基本サポートサービスにおけるサポート契約の認証情報の入力が要求されます。

公開モジュールの内、セキュリティ、および、不具合修正に関するものはサポート非契約者にも提供されます。サポート契約がないお客様は[認証しない]ボタンを押して下さい。

認証情報を入力して[送信]、
もしくは[認証しない]

オンラインアップデートでの適用(3/5)

ネットワーク経由で取得した公開モジュール情報から適用可能なアップデートモジュールの一覧を表示します。未適用のモジュールには「適用」欄に「未」と表示されます。

適用したいモジュールの[適用]ボタンを押すと適用確認画面が表示されます。

最終更新日付: 2007/04/23

最新情報に更新

■ アップデートモジュール一覧

日付	概要	パッケージ名	適用	操作
2007/4/19	Express5800/MW300e(N8100-1343)、Express5800/MW500e(N8100-1344)アップデートモジュール Rel1.0 をリリースします。	N8100-1343_N8100-1344_UpdateModule-1.0	未	適用

適用したいモジュールの[適用]ボタンをクリック

オンラインアップデートでの適用(4/5)

ネットワーク経由で取得した公開モジュールのパッケージの信頼性の確認を行って下さい。アップデートモジュール公開サイトに掲載されているメッセージダイジェスト文字列と画面に表示されるメッセージダイジェスト文字列が一致する事を必ず確認してから[OK]ボタンを押して下さい。

■ 信頼性の確認

ファイルの取得が完了しました。
適用前に、ファイルが正しいものかどうか確認を行ってください。
各パッケージのMD5メッセージ・ダイジェストは以下です。

パッケージ	MD5メッセージ・ダイジェスト
MWN8100-13431344_UpdateModule1-0.tgz	9f4e697e0896b30f13869eb379ff27ec

弊社アップデートモジュール公開ウェブサイトに掲載されている文字列と比較してください。同じ場合は正常に転送されています。「OK」ボタンをクリックするとインストールを実行します。文字列が異なる場合は、転送に失敗している可能性があります。「キャンセル」でモジュール一覧画面に戻り、再度「適用」を実行してください。

ＯＫ　キャンセル

注意
[OK]ボタンを押すことにより、インストールのスケジューリングが行われますが、インストールが開始されるわけではありません。アップデートモジュールのインストール自体は、システム再起動時に実施されます。

MD5 文字列を確認してから[OK]ボタンをクリック

オンラインアップデートでの適用(5/5)

[戻る]ボタンを押して下さい。アップデートモジュールは、システムを再起動することにより適用されます。Management Consoleからシステムを再起動して下さい。
ロードバランスクラスタ構成の場合は、必ず、マスタから先にシステムを再起動して下さい。スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行って下さい。
フェイルオーバクラスタ構成の場合は、必ず、CLUSTERPRO Webマネージャの「クラスタシャットダウン」でシステムを再起動して下さい。
「クラスタシャットダウン」の方法については、CLUSTERPROの
「CLUSTERPROシステム構築ガイド リファレンスガイド」を参照して下さい。

■ 操作結果通知

アップデートモジュール Rel 1.0 の適用を完了するには再起動を行う必要があります。
再起動せずに別のアップデートモジュールを適用すると、アップデートモジュールが正しく適用されませんので必ず再起動してください。
フェイルオーバクラスタ構成の場合には、CLUSTERPRO Webマネージャから、「クラスタシャットダウン」で再起動を行ってください。

戻る

[戻る]ボタンをクリック

オンラインアップデート以外での適用(1/4)

オンラインアップデートを利用されない場合は、適用するアップデートモジュールを本装置にダウンロードし、コマンドを実行して適用します。なお、複数のアップデートモジュールを適用する場合、アップデートモジュール毎に格納用ディレクトリを作成し、別々に格納して下さい。同じディレクトリ配下にすべてのアップデートモジュールを格納し適用を行った場合、アップデートモジュールの適用が正常に行えません。

※ダウンロードしたアップデートモジュールは、お客様自身が、本装置の /tmp に作成したディレクトリ配下にあるものとします。/tmp 以外にアップデートモジュールを置いた場合は、実際のディレクトリ に読み替えて下さい。

(1)本装置に telnet します(login 名：admin)。なお、フェイルオーバクラスタ構成の場合、稼働系サーバに telnet します。
ログイン後、su コマンドで root 権限を取得します。

オンラインアップデート以外での適用(2/4)

(2)お客様自身が /tmp に作成したディレクトリ配下へ移動後、以下のコマンドを実行し、アップデートモジュールを解凍します。アップデートモジュールが複数ある場合は、各ディレクトリ配下に移動し、解凍を行って下さい。

cd /tmp/お客様が作成した各ディレクトリ名
tar -xzf アップデートモジュールファイル

(3) (お客様作成の)各ディレクトリ配下に以下のファイルが作成されます。

- MailWebServer_UpdateModule.pl
- InstallFileList.txt
- MailWebServer_UpdateRPM.tgz
- onlineupdate-1.x.sh (x は、バージョンによって異なります)

(4) サービスの停止
Management Console の[サービス]画面から telnet 以外のすべてのサービスを停止させます。

オンラインアップデート以外での適用(3/4)

(5) アップデートモジュールの適用
各ディレクトリ配下にて以下のコマンドを実行します。

```
# perl  MailWebServer_UpdateModule.pl
```

※コマンドの実行は、telnet から root 権限で行って下さい。
コマンドを実行するとパッケージがインストールされます。
必ず、公開された順番で適用を行って下さい。

(6) システムの再起動
すべてのアップデートモジュールを適用した後に、システムを再起動します。
ロードバランスクラスタ構成の場合は、必ず、マスタから先に再起動を行って下さい。スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行って下さい。
フェイルオーバクラスタ構成の場合は、必ず、CLUSTERPRO Webマネージャから、「クラスタシャットダウン」で再起動を行って下さい。
「クラスタシャットダウン」の方法については、CLUSTERPRO の「CLUSTERPROシステム構築ガイド リファレンスガイド」を参照して下さい。

オンラインアップデート以外での適用(4/4)

(7) **稼働系切替**(**フェイルオーバクラスタ構成時**)
フェイルオーバクラスタ構成以外の場合、(8)**に進んで下さい。**

CLUSTERPRO Web**マネージャ にて稼働系の切り替えを行って下さい。**
切替後の稼働系サーバにて、(1)〜(6)**の作業を行って下さい。**
(1)**〜**(6)**を実施後、再度、稼働系の切り替えを行って下さい。**

(8) **サービスの起動**
Management Console **の**[**サービス**]**画面からサービスを必要に応じて起動します。**

変更履歴

版数	更新内容	更新ページ
第1版	初版	
第2版	文章構成の変更に伴う目次内のページ番号の見直し	2
	バックアップを追加	4
	オンラインアップデート以外での適用に関する文章の見直し	24〜27
	変更履歴を追加	28